

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立小松北高等学校

No.1

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
<p>1 教職員は、多様な生徒・保護者に対応できるよう様々な研修等で指導力を向上させ、生徒の「確かな学力」の定着を目指す。</p>	<p>① 研修等で生徒理解を深め指導力の向上を目指す。また少人数授業でのきめ細かな指導を行い「確かな学力」の定着を図る。</p>	<p>「授業の内容は理解できている」と答えた生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である</p>	<p>B 89.5%</p>	<p>生徒の興味・関心を引き出す授業方法を工夫しながら、基本的な学習事項の定着を重視することとともに、多様な生徒個々に配慮した学習指導を行うことで、一定の成果をあげている。 (今年度中間期 88.3%)</p>
		<p>「様々な研修等を積極的に活用し、指導力向上ができています」と答えた教員の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である</p>	<p>A 100%</p>	<p>多様な生徒に対して、効果的な学習指導ができるように、校内研修や情報交換の機会を度々設けている。今後も様々な研修を積極的に受講できるような環境を整えることで、指導力の向上に繋げていく。 (今年度中間期 91.7%)</p>
	<p>② 主体的・対話的で深い学びを目指す。</p>	<p>「自分の考えや意見を意識して発言や文章で表現しようとしている」と答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p>	<p>B 81.2%</p>	<p>学校での教育活動全体を通して、生徒が自分の考えや意見を持つように促している。しかし、大人しく控えめであることから、発言や文章で表現するのが苦手な生徒が多い。そのため、生徒が様々な形式で自分の考えや意見を表現できるように、発表の方法を工夫している。 (今年度中間期 79.2%)</p>
	<p>③ 生徒の興味・関心・理解度を向上させる工夫を行う。</p>	<p>「先生方は絵や写真の提示や機器を使うなど、教え方を工夫している」と答えた生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である</p>	<p>B 93.6%</p>	<p>ほとんどの授業でICTを効果的に活用して、絵や写真、図を用いた分かりやすい授業となるように心掛けている。公開授業や研修などを利用して、各教科でICT機器の利活用について、さらなる工夫改善に努めている。 (今年度中間期 93.3%)</p>
	<p>④ 授業規律の徹底を図り、積極的に授業に参加するようにする。</p>	<p>「授業に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒の割合が A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である</p>	<p>B 93.0%</p>	<p>多くの生徒が、授業にまじめに取り組んでいる。今後も多様な生徒の状況に十分配慮しながら、生徒が意欲的に授業に取り組めるように、授業改善を行っていく。 (今年度中間期 93.4%)</p>
<p>学校評議員から出た意見・提言</p>				<p>・普段は大人しく控えめな生徒であっても、SNS等では自分の考えを自由に表現できる場合もある。生徒個々に得意な表現の手段が異なるので、それぞれの特性を上手く活かすことができればよい。また、SNS等における適切な表現の仕方についても指導してもらいたい。</p>
<p>学校評議員から出た意見・提言を踏まえた今後の改善方法</p>				<p>・生徒が授業で自分の考えを持ち、それを表現しやすいように、発問の仕方や発表の形式を工夫していく。 ・いじめ対策も踏まえて、生徒にSNS等の適切な使用方法について指導する機会を設ける。</p>

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

2	生徒が主体となる活動を充実させ、基本的な生活習慣の確立と社会性の向上を目指す。	①	学校行事等に積極的に参加させることにより、生徒同士が共同で取り組む機会を設け、コミュニケーション能力の向上を目指す。	「様々な行事に積極的に参加し、友人との関係を深めることができた」と答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	D 67.9%	自ら進んで集団に交われない生徒が多く、行事に対しても消極的な人が多い。その一方で、学校行事に主体的に参加出来るようになってきた生徒もいる。今後、日々の授業に加え、学校行事を通して、生徒同士のコミュニケーションが取りやすい環境を作れるように、さらに教職員が積極的に関わっていく。 (今年度中間期 67.7%)
		②	来校者及び教員に対してしっかりと挨拶ができるようにする。また、地域の方々と交流する機会を増やし、社会の一員であることを体感させる。	「来校者や先生方に対して、自ら進んで挨拶をしている」と答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C 73.6%	大人しい生徒や対人関係が苦手な生徒が多いため、自ら進んで挨拶することも難しい。しかし、教職員から挨拶すると、ほとんどの生徒が挨拶や会釈を返してくれる。今後も教職員から積極的に生徒に挨拶し、生徒とコミュニケーションをとっていききたい。 (今年度中間期 74.0%)
		③	教育活動を通して、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境作りや、自己肯定感が育めるよう、校内環境の充実を図る。	「いじめ防止の取り組みの中で、弱いもののいじめや卑怯な振る舞いを許さない指導を常に心がけている」と答えた教員の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	A 100%	全教職員が個々の生徒のささいな変化に目を配りながら、コミュニケーションの機会をできるだけ持つように取り組んでいる。また、教職員間で生徒の情報交換を綿密に行っている。今後も、いじめの未然防止やいじめを見逃さない学校づくりに努めていく。 (今年度中間期 100%)
				「いじめは許されないことと理解して、相手の気持ちを考えて行動できる」と答えた生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	A 98.1%	生徒は「いじめは許されないことだ」ということを十分に認識している。今後も学校の教育活動全体を通して、生徒が相手の気持ちを考えて行動できるように指導していく。 (今年度中間期 95.3%)
学校評議員から出た意見・提言						<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がアルバイトなど地域の人との関わりによって、敬語や対人関係などを学ぶことが出来る。それをきっかけとして自信を持ち、コミュニケーション能力を高めていくことも出来るので、アルバイトなどの活動を奨励してほしい。 ・生徒自身が大事にしていることや、外国籍の生徒による母国の紹介など、プレゼンテーションの機会を作ってもらいたい。その発表をすることによって、自信も得られ、聞き手との交友関係も深められる。日本人同士では上手く交流出来なくても、外国人とならば交流出来る生徒もいるので、様々な機会を設けて生徒の交友関係を広げてもらいたい。
学校評議員から出た意見・提言を踏まえた今後の改善方法						<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも生徒にアルバイトを勧めてきたが、今後も引き続きアルバイトなどで地域と交流する様々な活動を奨励していく。 ・外国籍の生徒も含め、生徒同士がこれまで以上に交友関係が広げられるような活動を計画し、実践していく。

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

3	授業や進路行事、個人面談等を通して、早い時期から進路意識や自己肯定感を高め、望ましい勤労観、職業観を育成し、進路実現を目指す。	①	授業や進路行事、個人面談等の様々な教育活動を通して、進路意識や自己肯定感の向上や望ましい勤労観・職業観を啓発する。またキャリアパスポートの活用により進路目標を決定させ、その実現に向け意欲的に努力するよう働きかける。	「授業や進路行事・個人面談等を通して、生徒の進路意識や自己肯定感を高める働きかけを行った」と答えた教員の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	A 100%	学校全体で個々の生徒の抱える課題を捉えながら、進路意識の向上に努めている。今後、個人面談の時期や内容について吟味し、より効果のある面談を実施していく。 (今年度中間期 100%)
				「授業や進路行事・個人面談等を通して、進路意識や自己肯定感が高まった」と答えた生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C 62.3%	個人面談を通して、生徒の興味・関心を踏まえたうえで、個々の生徒に適した進路を提示していく。また、比較的年齢の近い卒業生と語る会を設けるなど、生徒がやりがいや達成感を得られるような行事を実施していく。 (今年度中間期 60.6%)
		②	一人一人の生徒に目を向けた指導を通して、進路実現を図る。	「先生は自分のことをよく理解して、進路について適切なアドバイスをしてくれる」と答えた生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	D 67.0%	コミュニケーションや対人関係を苦手とする生徒が多く在籍している中で、教員からの様々なアプローチにより、信頼関係を築こうとしている。個人面談では、生徒の思いや考えを十分引き出したうえで、進路について適宜アドバイスをしていく。 (今年度中間期 75.6%)
				進学・就職を希望している卒業生の進路決定率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	A 90.6%	生徒の興味・関心を踏まえたうえで、個々の生徒に適した進路について指導・助言している。また、定通企業ガイダンスや進路講話、企業見学などの学校行事を活用して、生徒の進路意識を高めている。今後、その内容について吟味し、よりよい行事を企画・運営していく。 (昨年度最終期 89.1%)
学校評議員から出た意見・提言			・個人面談では、教員から指導するよりも、生徒の話に傾聴し、生徒の立場になって考えることが大切である。しっかり生徒の話の話を聴いてあげてほしい。			
学校評議員から出た意見・提言を踏まえた今後の改善方法			・個人面談において傾聴を実践し、生徒に安心感を与え、信頼関係の構築に努める。			

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

4	ワークライフバランスの推進という観点から、業務の精選および効率化を進める。	① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。	「業務ごとにスケジュール管理を的確に行い、効率化を図るとともに、生徒や保護者と向き合う時間の確保に努めている」と答えた教職員の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	B 91.3%	会議や行事の運営を始めとして、各業務において効率化が図られている。今後は、これまで以上に生徒や保護者と向き合う時間を確保し、生徒理解に努めていく。 (今年度中間期 100%)
学校評議員から出た意見・提言			・個人面談など、生徒とコミュニケーションをとる機会を増やしてもらいたい。		
学校評議員から出た意見・提言を踏まえた今後の改善方法			・できる限り業務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。		